

# 中海は宝物

未来守りネットワーク活動記

<16>

中海の水質浄化や生物の存続のためには、毎年大量に発生する海藻類を採取しなければなりません。打ち上げられた海藻類は、ヨシやプラスチックなどと交じり合い、ごみの分別や焼却に多額の費用が必要になります。特に海藻は水分や塩分を含むため、簡単には焼却できず、大きな問題になるうとしています。

未来守りネットワークでは海藻問題を6年前から取り上げ、各漁協や漁業者に協力していただき、打ち上げられる前に藻刈りをしていきます。処理方法として着目したのが、古くから中海周辺地域で海藻やアマモを

## 海藻を生かす

採取し、農地に肥料として使用した歴史でした。櫻村賢二著「里海と弓浜半島の暮らし」によると、海藻肥料の歴史は古く、野山がほとんどない松江市八束町の大根島や鳥取県側の弓浜半島周辺では、江戸時

## 肥料として再利用模索

代から松江藩によって中海取しに行ったというこで、海藻の入会権が認められていました。

昭和35年ごろまでは、米などの心配がなく、カリウムでは輸出制限や価格調整を、鉄分が非常に多く含まれ、現に円高にもかかわらず高騰しています。少し前に大手新聞経済面に、化学肥料の輸出国は、減化学肥料や減農薬の「安全・安心」な農作物を求めようになっています。今後、TPP(環太平洋連携協定)問題をはじめ、農業は分岐点に入るかもしれません。変革の時代に向かいます。まず身近な海藻を生かすことから始めてはどうか。未来守りネットワーク理事長・奥森隆夫



中海の浅場で海藻を採取する境港、松江の漁業者たち

高騰による日本農業の危機が迫っているとの内容でした。特に世界的にリンが不足しているそうで、輸出国は自国の農業保護のため輸出を制限し、日本での価格は毎年高騰しています。農家の皆さんも実感しているのではないのでしょうか。

戦後、人口増加に伴う食料増産が必要となりました。化学肥料や農薬を大量に使用することで生産を高め国民に供給されました。しかし時代とともに消費者は、減化学肥料や減農薬の「安全・安心」な農作物を求めようになっています。

今後、TPP(環太平洋